

# 北海道における地域の歴史公開サイトの 現状と課題：

## デジタルアーカイブの視点からの一考察

札幌学院大学 皆川雅章



2019年3月16日 デジタルアーカイブ学会 第3回研究大会 京都大学

## 市町村数

1位	北海道	179
2位	長野県	77
3位	埼玉県	63

## 面積

1位	北海道	83,456.20
2位	岩手県	15,278.77
3位	福島県	13,782.75

北海道は、地理的、気候的に他県とは大きく異なる特徴を持ち、自然の豊かさと厳しさの両方の側面を併せ持っている。この地で現在の北海道の礎を築いたのは、いまよりもはるかに厳しい自然を乗り越えて原生林を切り開いた明治初期の屯田兵と呼ばれる人々を含む開拓者たちであった。これらの開拓者たちの苦闘の痕跡や記録は、いまも北海道の各地に残っている。その後も、移住の流れは続き、現在の東北六県をはじめとして、遠くは奈良、山口、徳島、広島、高知などからも人々が北海道の各地に入植し、新たな生活の基盤を築いていくこととなった。2018(平成30)年は1869(明治2)年に「北海道」の命名が行われてから150年目となった。

**北海道の特徴的な歴史を子孫達に伝えるには、それぞれの地域で父祖が現在の基盤を築いた歴史をデジタル化して記録・保管・公表することが有効な手段の1つになると考える。**

**本報告では、北海道の179市町村の歴史のインターネット上での公開状況を調べ、その結果をもとに、地域に根差したデジタルアーカイブを発展させるための方策を検討する。**

# **「地域の歴史公開サイト」 と「デジタルアーカイブ」**

**明示的に「デジタルアーカイブ」として公開されてはいないが、ここでは地域の歴史情報をデジタル化してインターネット上で公開しているサイトのコンテンツをそのように呼ぶ。**

**地域の歴史の公表形態は自治体ごとに異なることが判明**

**→ 比較検討のために6つのタイプに分類した**

- ① 写真展型**
- ② 年表型**
- ③ 概要型**
- ④ 資料型**
- ⑤ 歴史物語型**
- ⑥ Wikipedia型**

## ①写真展型

主として一覧表示など、閲覧のしやすさを考慮した上で画像の公開を行うタイプである。撮影年代の古い写真をデジタル化し、一定数集めて掲載するケースが多い。

## ②年表型

自治体の歴史が始まってから、現在に至るまでの出来事を順に列挙するもので、文字通り年表である。

## ③概要型

歴史全体の流れのなかで、年表の情報の中から、特徴的な出来事の画像と要約された説明文を記すものである。

#### **④資料型**

提示している画像の説明が詳細になされており、それを資料としてまとめると印刷物が作成できそうなレベルのものを指す。

#### **⑤歴史物語型**

単に事実の羅列だけではなく、自治体の歴史の特徴を統一的な流れの中で説明しようとするものである。

#### **⑥Wikipedia型**

上記の5つのような公表形態をとらずに、Wikipediaの事典的な記述形態をそのまま採用するものである。



# 事例に基づく現状分析

## ①メッセージの明確さ

地域の歴史はさまざまな形でインターネット上に公開されているが、「どのようなメッセージを発信しようとしているのか」についての、各自治体の意図や思いが必ずしも明確ではない。

## ②最低限の要件

「歴史」という観点からは、年表は必須であるが、年表だけでは年号と出来事の羅列になるので、閲覧者が全体像を把握することが容易になるように概要の説明があることが望ましい。

### **③資料型の活用**

**「資料型」については、現在のコンテンツのさらなる活用方法を検討してみる余地があると考えます。サイト上での見せ方の工夫によって、当該資料への関心を高められる可能性がある。**

### **④記録に対する思い**

**歴史公開サイトが閲覧され続けるには、公開する側の「記録に対する思い」が重要と考えます。**

## 閲覧されるための工夫例

### 「えんがる歴史物語」

「どのように広め、伝えていくかを考えたとき、ただ記録を残すだけではなく、当時の人々の想いをしのばせるような物語として再構築し、誰もがいつでも見ることができるよう形で提示すべき、という考えに至りました。」

# デジタルアーカイブ構築に向けて(1)

## 歴史公開サイトの充実

- ① Wikipediaの活用
- ② 図書館との連携
- ③ ポータルサイト構築
- ④ デジタルアーキビスト育成

## ① Wikipediaの活用

デジタルアーカイブ構築に際して、人的、経済的な問題を避けて通ることはできない。Wikipediaは出典の掲載を含めて、記事の厳密さを要求されるが、自らのサイトを持ってない自治体においては、Wikipediaの活用を図るという方法がある。

## ② 図書館との連携

デジタルアーカイブのコンテンツを作成する上で、正確性や客観性の担保は必須である。市町村史および地域資料を保管している図書館との連携を行いながら、構築していくことが良いと思われる。このような取組みは、地域の図書館利用の活性化にもつながっていく可能性がある。

### ③ポータルサイト構築

デジタルデータ活用の観点からは資料型、歴史の伝え方の観点からは歴史物語型を参考にするのが有効であると考えます。現存するサイトを一覧できる一種のポータルサイトを構築しておけば、相互に閲覧が容易になり、比較検討の材料が得られる。

本研究では、179市町村分の歴史公開サイトを集約・公開している。

[http://pub.sgu.ac.jp/~mngw\\_research/](http://pub.sgu.ac.jp/~mngw_research/)



#### **④ デジタルアーキビスト育成**

**地域のアーカイブは、限られた専門家だけで担うことは現実的ではない。さまざまなレベルの素養を持ったデジタルアーキビストの育成が今後も不可欠である。**

# **デジタルアーカイブ構築に向けて(2)**

## **郷土資料の活用**

**デジタルアーカイブ化推進のために地域資料へのアクセスを促進する。**

**→すでにデジタル化された資料をWeb上で多数公開している場合もあるが、一般的とはなっていない。**

**実物資料あるいはデジタル資料に誘導していくための仕組み**

**→ポータルサイトの中に、統一された形式で、画像と案内文からなる資料へのアクセス情報を付加する。**

# 郷土資料が語る北海道の歴史

## キーワード

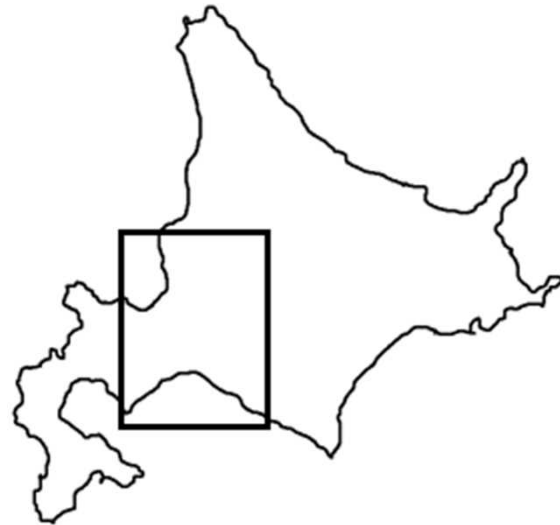
農業、林業、水産業、牧畜  
石炭(炭鉱)、鉄道  
屯田兵、囚人労働  
自然

# 郷土資料の展示例紹介

南幌(なんぽろ)町郷土文化資料室

歌志内(うたしない)市郷土館

岩見沢(いわみざわ)郷土科学館



# 郷土資料



炭鉱（歌志内市郷土館）

# 郷土資料



鉄道（南幌町郷土文化資料室）

# 郷土資料



林業（岩見沢郷土科学館）



# 郷土資料



農業（南幌町郷土文化資料室）

# 郷土資料



生活（岩見沢郷土科学館）

# 郷土資料



生活（歌志内市郷土館）

## **郷土資料に関する取組み(1)**

**2018年から北海道内の博物館、資料館を訪問し、郷土資料の公開状況を確認する作業を行い、現在までに22施設を訪問した。**

**地域によって、発展の柱となってきた主な産業が、農業、林業、水産業、鉱業など異なっていることがある一方で、農業や林業などでは、使用された道具に共通点が見出されることなどが確認され、その様子を画像として記録してきた。**

## 郷土資料に関する取組み(2)

インターネット上での資料の公開状況を調査してきた。郷土資料を公開していることが確認できた施設の件数は228あり、インターネット上での情報提供の手段も一様ではない。

独自のサイトを持ち、展示室の様子、資料のデジタル画像の公開、Wikipedia上での情報提供を行っている施設を持つ自治体から、関連施設の存在を確認できない自治体まで多様である。

## **おわりに**

**デジタル化された記録の扱われ方は自治体間で大きく異なる。**

**179市町村で公開している情報を集約したサイトを公開**

**→ 各サイト運営者の目に触れ、相互に評価しあうことによって、サイトの更新、地域間のつながりが促進され、「地域の歴史を残すこと」への関心が高まることを期待。**

## **地域資料の活用に向けた取組み**

**北海道内各地の博物館、資料館の調査活動を実施中。**